

## 平成21年度第2回薬学教育FD/IT活用研究委員会議事録

- I. 日時：平成20年10月31日（木）午後3時から午後5時まで
- II. 場所：北海道薬科大学 臨床講義棟 C309 演習室
- III. 出席者：松山委員長、黒澤副委員長、高取委員、大谷委員、松野委員  
事務局 井端，森下

### IV. 議事録

- 1. 検討内容：「OTCをテーマにしたシナリオ作り」について  
前回（7月30日）の委員会での合意に従って、各委員が事前に事務局に提出したシナリオについて検討を行った。  
まず、シナリオの構成方法として前回の合意について確認した。

#### シナリオの構成方法

- a 最初の情報提示
- b 症状に関する最初のSGDから予測される疾患と対応を求める
- c 学生にヒントを与えるような質問（advisary question）を加える
- d 模範回答例集を作成する。回答例の中にはダミーも含める
- e 医師への受診勧奨を行う必要のある症例についても解説する

以上のformatに従っているかを確認したところ、黒澤，大谷，松野のシナリオがformatに準じているとされた。他の委員のシナリオについては、formatに準拠していない部分が見られるので、次回委員会までに修正を行い、最終的に公開できる形でのシナリオ完成を目指す事で合意した。

なお、個々のシナリオに対する委員のコメントを次ページにまとめる。

表：作成シナリオと委員からのコメント

	作成者 (分担)	出席委員からのコメント
1	松山 (鎮痛薬)	仕事によるストレスからの頭痛を想定した。頭痛の種類について概説し、今回は緊張性頭痛として考える 症例発表、薬の選択について、発表に対する模範解答を提示してはどうか。 受診勧奨例に関して、脳循環障害からくも膜下出血に到る際に、最初の主訴が肩こりなどの場合がある。
2	黒澤 (更年期障害)	<b>Format</b> として模範的である。 ダミーの例を作るのは難しいので、まずは <b>standard</b> な例を作成して、そこに擦り合わせをしながらダミーを入れていったらよいのでは？ 症例の中に受診勧奨に相当するような主訴を入れていくのはどうか。
3	山岡 (風邪薬)	来院日時毎に症状が変化していることをシナリオに盛り込んだ意欲的なものになっている。また、学生の学習資料としての <b>references</b> も充実している。ただし、分量が3回分の講義になりそうなので、調整、分割をはかって再構築する必要がある。
4	山村 (花粉症)	<b>Advisory questions</b> の回答例が充実している。また、受診勧奨例も充実している。 <b>Format</b> に準拠していない部分があるので、修正を依頼する。
5	大谷 (胃腸薬)	<b>Format</b> に準拠した模範的シナリオである(最も模範的との評価もあった)。 今回の正解としてはストレス性のびらん性胃炎+NSAIDsによる悪化と想定した。さらにコメントとしてH <sub>2</sub> blockerに対する副作用を入れるかなどの議論があった。
6	高取 (便秘薬)	作成したシナリオと異なるファイルを送信した。11月2日に再提出されたので、この内容を元に統一 <b>format</b> に従って構成し直す。
7	鈴木 (目薬)	<b>Format</b> に準拠していない部分があるので、修正をお願いします。
8	松野 (肛門用薬)	<b>Format</b> に準拠した構成になっている。 <b>Advisory question</b> の部分が項目の羅列になっているので、追加・修正が必要 例：部位や症状に応じた剤形（軟膏か坐剤か）に関する質問を追加 ほとんどの薬物にステロイドが配合されているため、ことの認識 受診勧奨の際に、排便障害が単なる便秘か腫瘍によるものかを見極める必要性を書き加える。 今回は一般薬に限定したが、肛門用薬は民間・漢方薬も多いので、そちらに関する情報も項目に追加してはどうか。
9	大嶋 (滋養強壮剤)	最初の症例提示が、所謂通常の症例解析になっており、情報が多すぎる。 <b>format</b> に従って最初の情報提示と追加の詳細情報に分割して改訂する必要がある。

全体として症例は充実しているので、これを元に次回の委員会で修正版を持ち寄り、完成にこぎ着ける事を確認した。

このシナリオの位置づけとして、OTC の処方の際には処方箋以上に患者からの情報が乏しく、少ない情報の中で患者のニュアンスを瞬時に把握し、症例を判断する必要がある、薬剤師の臨床能力を高めるために重要である。また、薬事法改正に伴い薬剤師の職務が変化する中で、その職務の重要度を上げる上でも重要なスキルであるとされた。そこで、より完成度の高いシナリオを作成し、webなどで積極的に公開することを確認した。

## 2. その他の事項

年度内の目標として、事務局側から「薬学として必要な情報活用能力」の到達目標を設定したいとの提案があった。薬学教育モデル・コアカリキュラム（コアカリ）には情報教育関係の項目が設定されていないので、コアカリ実現に必要な知識（ソフトを鵜呑みにしない）と技能の到達目標を設定したいとの事。

議論の結果、委員会下部のWGとして大谷（情報関連）松野（統計関連）が指名され、情報コアカリに関するひな形の作成を行うことになった。

次回委員会の開催：年度内にあと2回（12月と年明け）開催したい。次回委員会は12月14-25日で委員の予定を調整して決定する。

以上